

学校名 さいたまけんこうのすしりつこうのすひがししょうがっこう  
埼玉県鴻巣市立鴻巣東小学校 校長名 高野 和夫

所在地 〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町6-4-56

児童生徒数 286名

TEL 048-541-1118

職員数 23名

FAX 048-542-3075

URL <http://.city.konosu.ed.jp/kohigashi-e/>

## 1 研究主題

「こころ元気、からだ元気なけやきっ子の育成」  
～できる・伸びる喜びを味わわせ  
主体的に活動する体育指導～

## 2 研究の期間

平成23年度～平成25年度 3年間

## 3 研究の目的

埼玉県の児童の体力は、新体力テストの結果から向上の傾向にあるものの、長期的な低下が依然深刻であり、社会環境の変化による日常的な身体活動の減少や、運動する子とそうでない子の二極化も進んでいる。本校児童の体力も同様な傾向を示し、走力や投力などの行動体力が劣り、基本的な技能が定着していない実態が顕著である。このような状況の中、平成23年度から本校は、市体力向上推進委員会委嘱を受け、「元気な心、元気な身体をつくるけやきっ子の育成」を主題に研究を進めてきた。その結果、「運動に進んで取り組む児童が増えた」「体力向上の意識が高まった」など変容をみる事ができたが、「元気な心、元気な体を自らつくる」「自分の能力・適性等に応じた課題をつかみ、自ら考え主体的に活動する」までには至っていないことがわかった。

そこで、平成24年度より埼玉具体力向上課題解決校の指定を受け、「こころ元気 からだ元気なけやきっ子の育成」を新たな主題とし、「こころ元気な子」「からだ元気な子」の具体像をそれぞれ次のように示し、心と体を一体としてとらえた研究に取り組んだ。

「こころ元気な子」→自ら進んで考え行動し、  
友だちと教え合い・高め合い活動する子  
「からだ元気な子」→発達段階に応じた動きや  
技能を身に付け、体力を高める子

また、研究を推進するにあたり、次のような基本方針を3点掲げ、職員一丸となり家庭・地域等と連携・協働した研究実践を進めた。

- (1) 体育研究を手段に、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。
- (2) めざす児童像や検証方法の具体化による、研究の「見える化」を図る。
- (3) 研究内容を重点化・焦点化し、児童の姿で結果責任を果たす。

## 4 研究の実践内容

### (1) 研究仮説

### 仮説1

発達段階や運動の特性を踏まえ、身に付けさせたい内容を明確にし、それを確実に定着させる有効な指導の手立てを明らかにすれば、児童の主体的な活動を促し、こころ元気、からだ元気なけやきっ子に育つであろう。

⇒教科体育の充実

### 仮説2

児童の実態を把握し、体力向上や運動生活を活性化させる環境づくりを行えば、進んで運動に取り組み、こころ元気、からだ元気なけやきっ子に育つであろう。

⇒生活体育の活性化

### 仮説3

身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解できるような指導法を工夫すれば望ましい生活習慣や態度が身に付き、こころ元気、からだ元気なけやきっ子に育つであろう。

⇒健康生活の向上

## (2) 教科体育の充実

ア 鴻巣東小「体育授業の基本」の作成と実践  
全教員の体育授業の質の向上と、体育授業の共通理解を図るために鴻巣東小「体育授業の基本」を作成し実践をした。



【鴻巣東小「体育授業の基本」】

### イ 自校体操の継続的な実施

本市体力向上推進委員会で作成した「鴻巣はつらつ体操」を業前運動および毎時間の体育授業で実施した。回数や段階にチャレンジしたりゲーム性のある種目を設けたりして、児童が楽しくめあてをもちながら、効率よく体力や動きを高められるようにした。



【技能段階に応じたブリッジ】

【投げる動作】

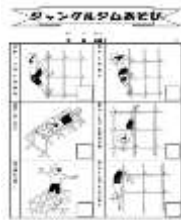
(3)生活体育の活性化

ア 生活体育の環境整備

遊具のペンキ塗りやそれぞれの遊具の検定カードを作成し、遊具のそばに設置した。児童がめあてをもって自主的に取り組めるようにした。



【掲示ボード】



【検定カード】

イ 業前運動の工夫・改善

業前運動の活性化を図るため、発達段階に応じた運動（遊び）を計画的に実施することにした。



【全学年による自主マラソン】



【高学年・8秒間走】

(4)健康生活の向上

全学年対象「早寝・早起き・朝ごはんチェックカード」を作成した。自分の一日の生活時間を見直したところをいかして、実践できるように取り組ませた。

また、「すくすく通信」を発行し、保護者へ協力を呼びかけることで、児童の生活習慣の改善を図った。



【早寝・早起き・朝ごはんチェックカード】



【「すくすく通信」の発行】

5 研究の成果

(1) 児童の主体的な取組が増し、表情が生き生きしてきた。学習規律や集団行動が確立し、児童の動きがきびきびしてきた。

(実態調査H24. 7→H25. 7)

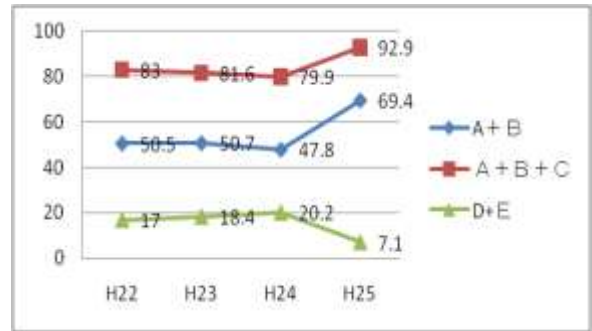
【めあてをもち教え合って学習 3.06→3.76】(4段階評価)

(2) できる・伸びる喜びを味わわせる指導が充実し、児童の技能が向上してきた。また、体育授業1単位時間の流れが共通理解でき、授業が充実してきた。

【2学年跳び箱成就率 62.5%→95.7%】

【6学年走り高跳び記録平均 12cm 向上】

(3) 運動の習慣化・生活化が図られ、児童の体力の向上が見られてきた。



【新体力テスト総合評価の割合 (%) の推移】

(4) 業前運動の改善により、進んで業前運動に取り組む児童が増えた。(実態調査H24. 7→H25. 7)

【業前運動は好きですか 79%→94%】

また、遊具のペンキ塗りやそれぞれの遊具の検定カードの作成により、外遊びに取り組む児童が増え、運動の生活化につながってきた。

(5) 児童の健康生活に対する意識や健康・安全に関する実践力が向上した。(実態調査H24. 7→H25. 7)

【朝食「必ず食べる」 95.6%→94.3% (90%以上を維持)】

【就寝時刻「10時まで」 73%→81.3%】

【睡眠時間「8時間以上」 62.9%→72.4%】

【体育の授業以外で一時間以上運動「ほとんど毎日」 53.9%→61.1%】

(6) 家庭と協力しながら、生活習慣のよりよい改善が図れた。

6 研究の意義、発展性

体育研究を手立てとし、3年間の研究に取り組んだが、児童の変容は目に見えて明らかである。校庭には元気に遊ぶ児童の声が響き渡り、授業中は「ハイ」のやる気に満ちた元気な返事が聞こえるようになった。何より「やるぞ」「がんばるぞ」という何事にも本気で取り組む児童の表情が、研究の一番の成果であると感じている。しかし、研究とはその時々の一過性のもものでは意味がない。これらの取組を今後とも深化・充実させ、鴻巣東小学校の伝統とすることが、真の意味での体育研究であるとする。そのためにも今後とも研究の工夫・改善に努め、教職員一丸となつての取組を継続していきたい。